

「赤旗」と笠井議員の国会質問で “やらせメール”を九電が謝罪

原発再開許すな



九州電力の“やらせメール”問題を明らかにした「しんぶん赤旗」のスクープと日本共産党の笠井亮衆院議員の国会での追及に7月6日、九州電力の社長は“やらせメール”の投稿を依頼したことを認め、謝罪しました。国民を欺き、安全より原発再開を優先する姿勢は許されません。

「赤旗」がスクープ

政府主催の玄海原発の説明番組で行われた“やらせメール”。番組の直前に、しんぶん赤旗は“やらせメール”の証言と内部資料を入手。他紙に先がけて7月2日に1面トップで報道しました。

2011年 7月 2日 土曜日
日刊紙 21756号

発行所 日本共産党中央委員会
東京都千代田区千代田 4-4-28の7
〒101-8588 電話 03(3483)9111

©日本共産党中央委員会2011年

定価(税別) 1冊100円
日刊紙(税別) 1冊100円
日刊紙(税別) 1冊100円
1冊100円
1冊100円

中央委員会 03(5474)8558
赤旗編集部 03(3560)1904
日本共産党のホームページ
http://www.jcp.or.jp/

九電が“やらせ”メール

玄海原発再稼働求め 関係会社

九州電力が、玄海原発の再稼働を求め、関係会社を通じて、国民を欺き、安全より原発再開を優先する姿勢を暴露した。

国主催の説明会

九州電力が、玄海原発の再稼働を求め、関係会社を通じて、国民を欺き、安全より原発再開を優先する姿勢を暴露した。



(写真) 質問する笠井亮議員
=7月6日、衆院予算委員会

笠井「世論誘導ではないか」

首相「大変けしからんことだ」

7月2日の赤旗報道にかかわらず、やらせメールを全面否定していた九州電力。しかし、日本共産党の笠井衆院議員の国会質問（7月6日）に、首相は「大変けしからんこと」と答弁。同日に九州電力は“やらせ”を認め、謝罪しました。

「組織ぐるみ」で

“やらせメール”は九電副社長(当時)の部下への指示であったのも明らかに。まさに組織ぐるみの“やらせ”でした。

●真実がわかる 明日が見える—「しんぶん赤旗」をぜひお読みください。(日刊紙2900円/日曜版800円)

原発再稼働 見直しへ追い込む

国会審議が再開された7月6日、衆院予算委員会で質問に立った日本共産党の笠井亮議員は、政府の原発「安全宣言」の根拠を突き崩し、再稼働の見直しに追い込みました。

日本共産党



(写真)菅内閣の原発政策を追及する笠井亮議員
(左)=7月6日、衆院予算委員会

笠井「短期的な対策だけだ」

笠井氏は、福島原発の事故について政府が国際原子力機関に提出した報告書で、28項目の「教訓」をあげていることを指摘し、「玄海原発ではこれらの教訓に基づく対策がとられたのか」と追及。過酷事故対策で短期的にやるべきものしかやっていないことが明らかになり、「安全神話そのものだ」と批判しました。

笠井「原発再稼働先にありきた」

首相「全原発でストレステスト」

さらに九州電力の玄海原発について、津波・地震対策の状況を質問すると、「建屋などの防水性は大変、工事に時間がかかる」、「玄海の周辺の地震は活断層型であり備えができています」などと経産相は答弁。笠井氏は「対策は小手先で再稼働先にありきた」とたたみかけると、首相は「ストレステストを含めて、すべての原発について、共通のルールでチェックをできるような形を検討する」と答弁しました。



(写真)玄海原発・九州電力玄海原子力発電所の1号機(手前)と2号機(奥)＝佐賀県玄海町

笠井「原発再稼働要請は撤回を」

首相「新しいルールでやる」

笠井氏は原発立地自治体の首長から「再開のさの字も出る状況ではない」など厳しい批判が上がっていることも紹介し、「ルールをつくるというなら少なくとも再稼働は白紙にするべきだ」と追及。首相は、「十分でないものは改めて新しいルールの中でやっていく必要がある」と答弁しました。

日本共産党の
「原発の撤退提言」
をぜひお読みください

